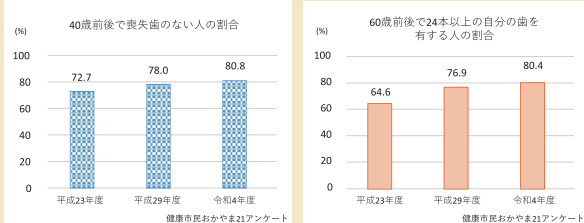


岡山市の現状と課題

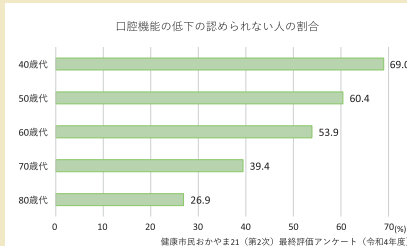
●歯の数は、保たれている

40歳前後で喪失歯のない人の割合や60歳前後で24本以上の自分の歯を有する人の割合は増加しています。



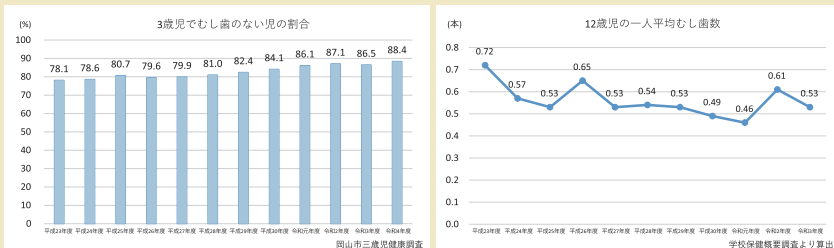
●口腔機能は、60歳以前から低下している

「半年前に比べて、固いものが食べにくくなった」、「お茶や汁物等でむせることがある」、「口の渇きが気になる」の3つの項目のいずれにも当てはまらない人は、年齢が高くなるにつれて減少しています。



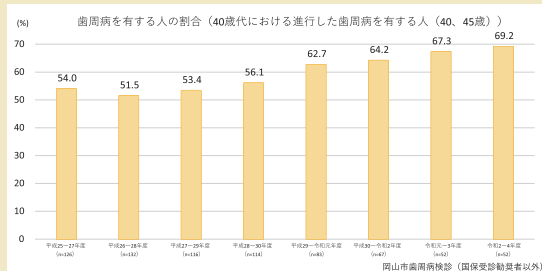
●乳歯のむし歯は減少しているが、永久歯のむし歯はあまり減少していない

三歳児健康診査時にむし歯のない児は増加していますが、12歳児の永久歯の一人平均むし歯数はあまり減少していません。



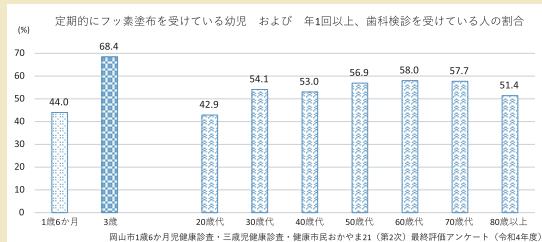
●歯周病の人は、増えている

4mm以上の歯周ポケットを有する40歳代の人が増加しています。



●定期的に歯科検診を受けている人は、20～40歳代の男性で少ない

三歳児健康診査の時点では、約7割の幼児が「フッ素塗布を定期的に受けている」と答えています。20歳代から40歳代にかけて、歯科の受診機会が減少しています。



岡山市歯科保健基本計画(第2次)

概要版

令和6年度～令和17年度



令和6(2024)年3月

岡山市

健康寿命の延伸・健康格差の縮小

健康で質の高い生活のための歯科口腔保健の実現
歯・口腔に関する健康格差の縮小

適切な食生活の実現や社会生活等の質の向上
歯・口腔の健康に関わる疾病の予防・重症化予防

歯科口腔保健の推進のための社会環境の整備

I 口腔機能の獲得、維持・向上

A. 良好な口腔領域の成長発育

a. 乳幼児期から学齢期における
口腔機能の健全な育成

目標項目	対象者	直近値	目標値 (R17年度)
歯科専門職(園医等)による口腔機能の育成に関する教育を行う園の割合の増加	幼稚園・保育園・認定こども園	49.3% (園医等)	70%
歯科専門職(学校歯科医等)による歯科保健教育を行う学校の割合の増加	小学校	50.5% (学校歯科医等)	70%

参考項目	対象者
口腔機能の発達が気になる幼児の減少	
口唇がきちんと閉じており、よだれかけが不要な幼児の割合の増加	1歳6か月児
口唇の開鎖不全である「お口ぼかん」の幼児の割合の減少	三歳児

C. 歯科疾患の重症化予防

a. 成人・高齢者のむし歯対策

目標項目	対象者	直近値	目標値 (R17年度)
未処置歯を有する者の割合の減少	健診受診者	29.5%	20%
フッ素洗口を実施している者の割合の増加	一般(20歳以上)	16.3%	50%
過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	一般(20歳以上)	52.4%	95%

参考項目	対象者
高濃度(1,400~1,500ppm)フッ素入り歯磨き剤を使用している者の割合の増加	一般(20歳以上)

b. 成人・高齢者の歯周病対策

目標項目	対象者	直近値	目標値 (R17年度)
歯周炎を有する者の割合の減少	健診受診者(40~45歳)	67.0%	25%
歯間ブラシを使用している者の割合の増加	40歳代	57.1%	70%
過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	一般(20歳以上)	52.4%	95%
歯科健康教育を実施している事業所の割合の増加	事業所	10.3%	30%

B. 歯科疾患の発生予防

a. 永久歯(成人)のむし歯予防対策

目標項目	対象者	直近値	目標値 (R17年度)
フッ素塗布を受けたことのある幼児の割合の増加	1歳6か月児	44.0%	65%
定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合の増加	三歳児	68.4%	90%
むし歯のない幼児の割合(処置済も含め)の増加	三歳児	88.4%	95%
一人平均むし歯数(処置済も含め)の減少	12歳児(中学校1年生)	0.53本	0.2本

参考項目	対象者
家庭でフッ素洗口を実施している生徒の割合の増加	12歳児(中学校1年生)
高濃度(1,400~1,500ppm)フッ素入り歯磨き剤を使用している生徒の割合の増加	12歳児(中学校1年生)

b. 学齢期からの歯周病予防対策

目標項目	対象者	直近値	目標値 (R17年度)
歯ぐきに炎症所見を有する生徒の割合の減少	中学生	20.4%	10%
歯科専門職(学校歯科医等)による歯科保健教育を行う学校の割合の増加	中学校	25.5% (学校歯科医等)	50%

参考項目	対象者
定期的に歯科受診している生徒の割合の増加	12歳児(中学校1年生)
歯磨き時に出血を認める生徒の割合の減少	12歳児(中学校1年生)

D. 口腔機能の悪化への対応

a. 成人・高齢者の口腔機能の維持・向上

目標項目	対象者	直近値	目標値 (R17年度)
現在歯数が24本以上の者の割合の増加	60歳(55~64歳)	80.4%	95%
現在歯数が20本以上の者の割合の増加	80歳(75~84歳)	63.9%	85%
口の体操を実施している者の割合の増加	50歳(45~54歳)	3.9%	35%
	80歳(75~84歳)	16.5%	65%
口腔機能が低下していない人の割合の増加	50歳(45~54歳)	66.6%	85%
	80歳(75~84歳)	35.7%	70%

II 定期的に歯科検診や歯科医療を受けることが困難な人々(障害者(児)、要介護者等)への対応

a. 障害者(児)、要介護者を受け入れる
歯科医療機関の増加

目標項目	対象者	直近値	目標値 (R17年度)
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	80歳のうち 要介護1~2 介護認定無	50.1% 64.5%	介護度による差を 無くす
障害者(児)を受け入れている歯科医療機関数の増加	歯科医療機関	97/461 施設 (知的 (中等度・軽度))	200施設

b. 在宅療養者への訪問診療等の充実

目標項目	対象者	直近値	目標値 (R17年度)
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	80歳のうち 要介護3~5 介護認定無	56.0% 64.5%	介護度による差を 無くす
歯科訪問診療を行う歯科医療機関数の増加	歯科医療機関	239/461 施設	300 施設

c. 障害者(児)入所施設、要介護者入所施設職員の
口腔ケアの知識と技術の向上

目標項目	対象者	直近値	目標値 (R17年度)
年1回以上、歯科検診を実施している障害者入所施設の割合の増加	障害者入所施設	92.9%	100%
口腔ケアに関する研修を行っている障害者入所施設の割合の増加	障害者入所施設	42.8%	100%
年1回以上、歯科検診を実施している介護保険施設の割合の増加	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設	60.9%	100%
口腔ケアに関する研修を行っている介護保険施設の割合の増加	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設	42.4%	100%

III 医療・各種サービスとの連携

a. 多職種連携の推進

目標項目	対象者	直近値	目標値 (R17年度)
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	糖尿病治療中	49.8% (40歳代)	95%
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	がん治療中	61.4% (40歳代)	95%

b. かかりつけ歯科医機能の周知と推進

目標項目	対象者	直近値	目標値 (R17年度)
定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合の増加	三歳児	68.4%	90%
過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	一般(20歳以上)	52.4%	95%
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	40歳代	45.8%	95%
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	80歳のうち 要介護1~2 3~5 介護認定無	50.1% 56.0% 64.5%	介護度による差を 無くす
かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の数の増加	歯科医療機関	99/442 施設	200 施設

参考項目	対象者
定期的に歯科受診している生徒の割合の増加	12歳児(中学校1年生)

※参考項目は今後調査予定

